

オフィスの環境デザイン手法に関する研究 —ワーカーの働きやすさの印象に及ぼす環境要因の影響—

Study of Environmental Design Technique for Offices
(Influence of Environmental Factor on Impression of the Ease of Work of Laborers)

佐藤 考浩^{※1} 小林 真人^{※1} 三浦 太郎^{※2} 科部 元浩^{※3} 工藤 恵美子^{※4} 北條 寛人^{※5} 辻村 壮平^{※5}
Takahiro Sato Masahito Kobayashi Taro Miura Motohiro Shinabe Emiko Kudo Hiroto Hojo Sohei Tsujimura

1.技術研究所 研究開発 G 2.技術研究所 技術企画 G 3.新事業統括部 4.コンシェルジュゼネラルオフィス 意匠設計 G 5.茨城大学大学院

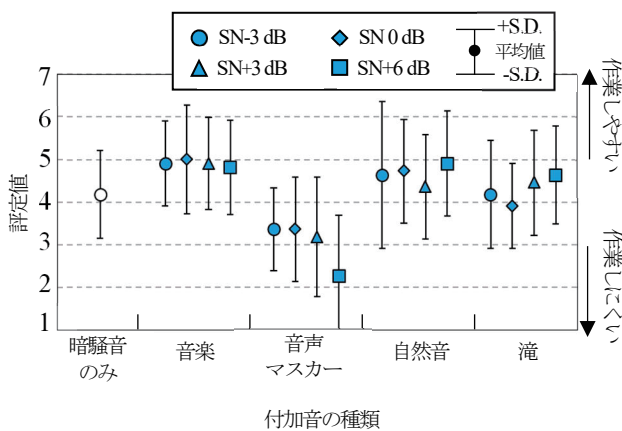
キーワード オフィス 働きやすさ 環境要因 知的作業 リフレッシュ

概要

ワークスタイルが協働的で創造的な業務へと移行していることに伴い、現代のオフィスでは作業効率が上がることに加えて、リフレッシュしやすい環境の整備も必要となっている。そこで本研究では、ワーカーの働きやすいオフィスの評価構造に関する研究から得られた知見をもとに、オフィスにおける執務作業及びリフレッシュの行為に着目し、それぞれの行為を行うワーカーに対して環境要因が及ぼす影響を検討することを目的とした主観評価実験を実施した。執務作業については付加音の種類及びSN比と作業しやすさの関係を検討した。また、リフレッシュについては音環境と視環境の複合影響を捉えるため、音のみの提示、映像のみの提示、映像と音の複合刺激の提示の3つの主観評価実験を実施した。

成果

- 執務作業に関する主観評価実験では、背景騒音が 40 dB のオフィス環境で音楽や自然音を付加する場合、SN 比+6 dB の条件までは個人での知識処理及び知識創造作業に対し作業しやすい印象をもたらすことが明らかとなった。一方、付加音が音声マスキングの場合、低い提示レベルでも各知的作業を妨害し得ることが示された。
- リフレッシュに関する主観評価実験では、視聴覚情報の総合的な印象に及ぼす影響は、映像による快適感よりも音による不快感の影響の方が大きいことが示された。
- 提示される刺激要素間で調和している刺激群を把握することがリフレッシュしやすさの観点で重要であることが示唆された。



図一 作業しやすさの主観評価値 (知識創造作業)

表一 各提示刺激におけるリフレッシュスペースでの快適さ

No.	提示映像	付加音	映像のみの快適さ	音のみの快適さ	複合影響の快適さ
1	滝	音楽	+	+	+
2	滝	音声マスキング	+	-	-
3	滝	自然音	+	+	+
4	滝	滝	+	=	+
5	車窓	音楽	-	+	=
6	車窓	音声マスキング	-	-	-
7	車窓	自然音	-	+	=
8	車窓	滝	-	=	-
9	水鳥	音楽	+	+	+
10	水鳥	音声マスキング	+	-	-
11	水鳥	自然音	+	+	+
12	水鳥	滝	+	=	=

※ 表中の“+”は「快適」を、“=”は「どちらともいえない」を、“-”は「不快」を示す。